

北九州市立文学館第35回特別企画展

門司情景

海峽に刻まれた
言葉の記憶
——文学でたどる

2024年
10/26 (土)

↓
2025年
1/26 (日)



開館時間 9時30分～18時(入館は17時30分まで)

※初日の展示室入場は開会式終了後の10時30分から

休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)、年末年始(12月29日～1月3日)

観覧料 一般 240円(190円) 中高生 120円(90円) 小学生 60円(40円)

※()内は30人以上の団体料金

・療育手帳提示者、身体障害者手帳提示者、精神障害者保健福祉手帳提示者及び付添人(身体障害者の方の付添は本人が4級以上)、北九州市免許返納特典カード提示者(条件あり)は無料
・公的機関が発行した北九州市、下関市、福岡市、熊本市、鹿児島市の65歳以上の市民であることを確認できる証明書提示者の割引は2割

主催 / 北九州市立文学館

後援 / 朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、NHK北九州放送局、RKB毎日放送、KBC、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、テレQ、CROSS FM



北九州市立文学館
Kitakyushu Literature Museum

〒803-0813 北九州市小倉北区内4-1
TEL 093-571-1505 FAX 093-571-1525
<https://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>



暁の門司海峡の景

—自分は思はず手を拍つた。

田山花袋「第二軍從征日記」(博文館一九〇五・二)



写真:photoAC

関門海峡に臨む九州の玄関口・門司は、万葉の昔から多くの歌人・文人・作家たちによって、歌や紀行文、詩や小説に書かれました。

奈良・平安時代は太宰府へ、江戸時代は長崎へ向かう人びとが行き交い、海峡をはさんで、源平合戦、第二次長州征討など、戦乱の地ともなりました。明治期には筑豊からの石炭の輸出港として急速に発展。大正、昭和期には大陸との交易が盛んになり、外国航路の起点・寄港地として賑わい、一方で出征してゆく兵士たちを送り出す港にもなりました。

本展では門司を描いた古代から現代までの文学作品を紹介しながら、時代とともにうつり変わる門司の情景を展覧します。

門司情景

—文学でたどる



町田そのこ
『コンビニ兄弟—テナダネス門司港こがね村店』
(新潮文庫 2020.8)

キラキラした海に、レトロでかわいらしい建物たち。人力車が行き交い、賑やかな声がすると足を向けたらバナナのたぎ売りのおじさんが声を張っていた。太陽の光を受けて、黄色いバナナが眩しく光っている。

大岡昇平

「出征」

(「新潮」1950.1)

大岡昇平は1944年3月、教育召集を受け、東京の東部第二部隊に入営。そのまま門司に移され、フィリピンへと出征した。本作には、門司で過ごした一週間の街中の様子や、乗船してからの海峡の風景が書かれている。



『新日本古典文学大系45平家物語下』
「卷第十一 先帝身投」(岩波書店一九九三・一〇)

山鳩色の御衣にびんづらゆはせ給ひて、御涙におぼれ、ちいさくうつくしき御手をあはせ、まづ東をふしおがみ、伊勢大神宮に御いとま申させ給ひ、其後西にむかはせ給ひて、御念仏ありしかば、二位殿やがていだし奉り、「浪のしたにも都のさぶらふぞ」となぐさめたてまつて、ちいろの底へぞ入給ふ。



『五足の靴』(岩波文庫 2007.5)

与謝野鉄幹、木下杢太郎、北原白秋、平野萬里、吉井勇の五人が1907年7月下旬から8月末に九州を旅し、東京に戻るまでの旅行記。同年8月7日から9月10日にかけて、「東京二六新聞」紙上に連載された。門司に上陸した記述はなく、引用は下関側から門司を見た描写。

対岸の門司にはセメント製造所の徳利電から吐き出す灰色の煙が、東へ東へと延びて市街の半を掩う。その間から九州の山脈や、赤煉瓦の壁が隠見する。門司は石炭の集散地だけに、その市民は石炭を食物にして石炭の煙を吐き出しているように思う。



『平家物語 卷十一 絵入本』

(木版 延宝5(1677)年)

学芸員によるギャラリートーク

日時 | 2024年11月10日(日)、12月14日(土)
2025年1月11日(土)
各回14:00から30分程度
定員 | 各回先着10名程度 ※申込不要

Event
参加無料



アクセス

- JR小倉駅より徒歩15分
- JR西小倉駅より徒歩10分
- 市立中央図書館・文学館前バス停より徒歩1分
- 北九州市役所前バス停より徒歩2分
- 小倉北区役所前バス停より徒歩2分
- 北九州都市高速大手町ランプより2分

駐車場は文学館最寄りの各有料駐車場をご利用下さい。



北九州市立文学館
Kitakyushu Literature Museum

〒803-0813

北九州市小倉北区城内4-1

TEL 093-571-1505

FAX 093-571-1525

https://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/

